【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成27年4月9日(2015.4.9)

【公表番号】特表2014-516764(P2014-516764A)
【公表日】平成26年7月17日(2014.7.17)
【年通号数】公開・登録公報2014-038
【出願番号】特願2014-501716(P2014-501716)
【国際特許分類】
Ｂ０５Ｄ　7/24　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 175/04　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/40　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ　18/83　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　7/12　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　5/02　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　65/40　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　1/36　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０５Ｄ　7/24　３０２Ｔ
Ｃ０９Ｄ 175/04
Ｂ３２Ｂ　27/40
Ｃ０８Ｇ　18/83
Ｃ０９Ｄ　7/12
Ｃ０９Ｄ　5/02
Ｂ６５Ｄ　65/40　Ｄ
Ｂ０５Ｄ　1/36　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成27年2月18日(2015.2.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
多価金属カチオンまたは他の架橋剤を含む二次コーティングを一次コーティングの上に適用するステップを含み、前記一次コーティングがポリウレタン樹脂を含む、バリア層の調製方法。
【請求項２】
前記一次コーティングが水分散性ポリウレタン樹脂または有機溶媒可溶性ポリウレタン樹脂を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記一次コーティングが前記ポリウレタン樹脂および中和剤の組合せを含む、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
請求項１記載の方法に用いるための２コートバリア系であって、以下の：
ａ．ポリウレタン樹脂を含む一次コーティング；および
ｂ．多価金属カチオン架橋剤を含む二次コーティング
を包含する２コートバリア系。

【請求項５】
前記一次コーティングが水性または水混和性溶媒中のポリウレタン樹脂の分散液であるか、あるいは前記一次コーティングが有機溶媒中のポリウレタン樹脂の溶液である、請求項４に記載の２コートバリア系。
【請求項６】
前記一次コーティングが水性または水混和性溶媒中の中和ポリウレタン樹脂の分散液である、請求項５に記載の２コートバリア系。
【請求項７】
前記ポリウレタン樹脂の少なくとも１０重量％がウレタン基、および存在する場合には尿素基で構成される、請求項４～６のいずれか一項に記載の２コートバリア系。
【請求項８】
ポリウレタン樹脂が、ジイソシアネートと、C_{2-10}ポリオールおよび／または３５０以下の分子量（Ｍｒ）を有するポリオールから選択される１以上のポリオールとの反応生成物である、請求項４～７のいずれか一項に記載の２コートバリア系。
【請求項９】
前記１つ以上のポリオールがポリヒドロキシ酸を含む、請求項８に記載の２コートバリア系。
【請求項１０】
前記ポリウレタン樹脂が酸基を含む、請求項４～９のいずれか一項に記載の２コートバリア系。
【請求項１１】
前記一次コーティングが１２ｇ／m^2以下のコーティング重量で１２μｍ厚コロナ表面処理二軸配向ＰＥＴ皮膜に適用され、前記二次コーティングが前記一次コーティング上に適用される場合、９０％ＲＨおよび２３℃で、８cm^3／m^2／日以下の酸素透過率（ＯＴＲ）をもたらすか、および／または、前記一次コーティングが１２ｇ／m^2以下のコーティング重量で１２μｍ厚コロナ表面処理二軸配向ＰＥＴ皮膜に適用され、前記二次コーティングが前記一次コーティング上に適用される場合、９０％ＲＨおよび３８℃で、１５ｇ／m^2／日以下の水蒸気透過率（ＭＶＴＲ）をもたらす、請求項４～１０のいずれか一項に記載の２コートバリア系。
【請求項１２】
前記一次および二次コーティングの全固形分の１０重量％以下が無機層状充填剤材料である、請求項４～１１のいずれか一項に記載の２コートバリア系。
【請求項１３】
前記ポリウレタン樹脂の少なくとも１０重量％がウレタン基、および存在する場合には尿素基で構成され、および／または、
ポリウレタン樹脂が、ジイソシアネートと、C_{2-10}ポリオールおよび／または３５０以下の分子量（Ｍｒ）を有するポリオールから選択される１以上のポリオールとの反応生成物であり、および／または、
前記１つ以上のポリオールがポリヒドロキシ酸を含み、および／または、
前記ポリウレタン樹脂が酸基を含む、請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１４】
請求項１、２、３、および１３のいずれか一項に記載の方法に従って調製される、前記ポリウレタン樹脂および多価金属カチオンまたは他の架橋剤の生成物を含む、バリア層。
【請求項１５】
支持体上に請求項１４に記載の前記バリア層を含む、バリア材。
【請求項１６】
前記ポリウレタン樹脂のコーティング重量が１２ｇ／m^2以下であり、９０％ＲＨおよび２３℃で、８cm^3／m^2／日以下の酸素透過率（ＯＴＲ）をもたらすか、および／または、前記ポリウレタン樹脂のコーティング重量が１２ｇ／m^2以下であり、９０％ＲＨおよび３８℃で、１５ｇ／m^2／日以下の水蒸気透過率（ＭＶＴＲ）をもたらす、請求項

１４に記載のバリア層または請求項１５に記載のバリア材。
【請求項１７】
請求項１４に記載のバリア層を含む層状皮膜、または該バリア層を組入れるパッケージ材、または請求項１５のバリア材であって、
前記バリア層の５重量％未満が無機層状充填剤材料である、層状皮膜、パッケージ材、またはバリア材。
【請求項１８】
請求項１４に記載のバリア層を含む層状皮膜、または該バリア層を組入れるパッケージ材、または請求項１５のバリア材であって、
前記バリア層の固形分の２重量％以下が無機層状充填剤材料である、層状皮膜、パッケージ材、またはバリア材。
【請求項１９】
請求項１４に記載のバリア層を含む層状皮膜、または該バリア層を組入れるパッケージ材、または請求項１５のバリア材であって、
前記バリア層が無機層状充填剤材料を全く含まない、層状皮膜、パッケージ材、またはバリア材。